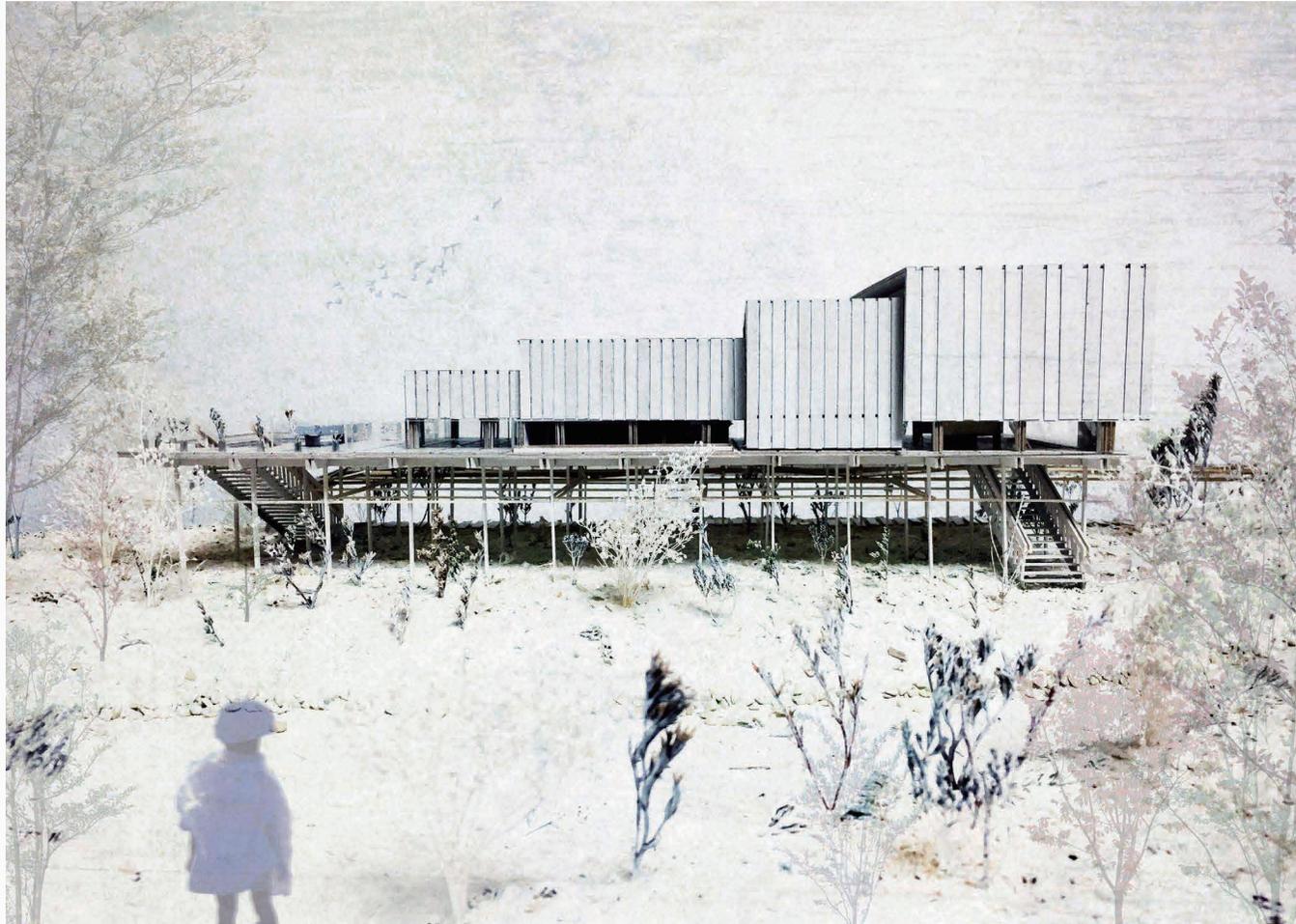


JIA EXHIBITION OF STUDENT WORKS FOR MASTER'S DEGREE 2017

[Inohara Institute of Technology Design and Engineering Hokkaido Hirosaka Labo no.1003 Asakura Shirohiko]

20170321 - 20170323



「建築」を介して、世界はもっと美しく見えるか。

私には夢があります。

それは、いつの日か建築設計者となって、時代を超えて愛される「建築」をつくることです。本修士計画はその夢の出発点であり、その夢を叶えるための第一歩です。

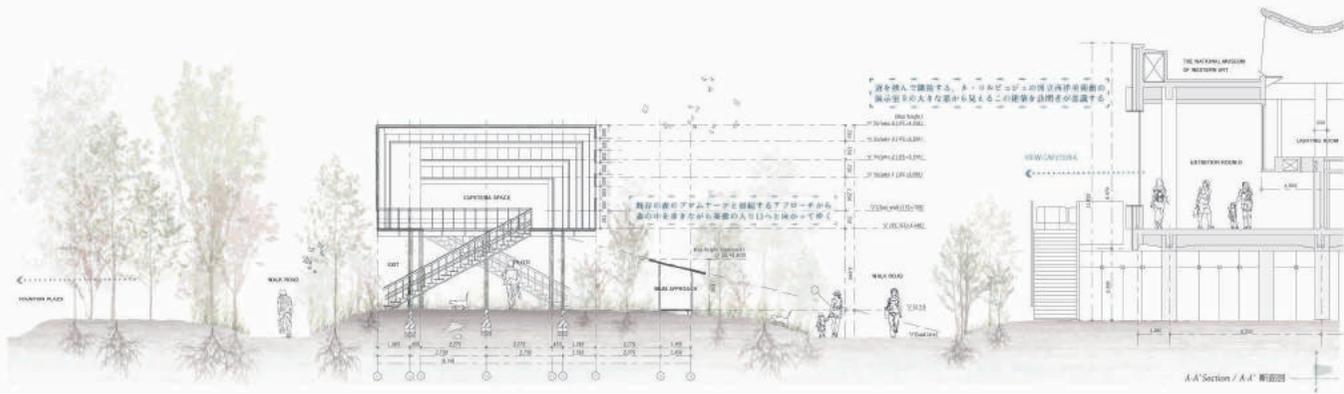
「建築」は、ただ単に人の暮らしを豊かにするための道具ではない。

時代を超えて愛される建築とは、様々な世界の変化や矛盾を受け入れ、それとの連続的な脈絡の中にあると思う。

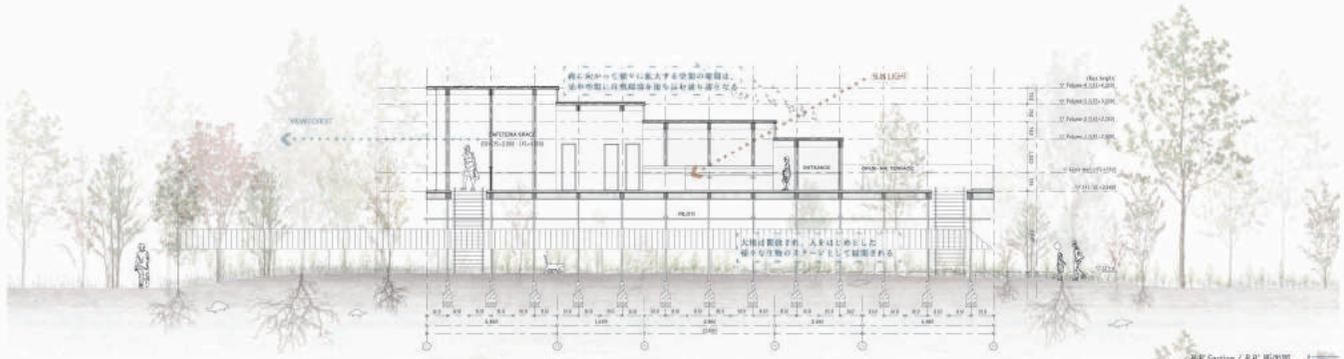
「建築」を介したその先の世界を思考することで、少しでも「建築」が美しいものにならないか、と一生懸命考えた。

私は世界の美しさと、ひとつの建築の力を信じている。

こんな時代だからこそ、場内やプログラムを超えてゆく「建築」の力を、もう一度、大きな声で叫びたい。



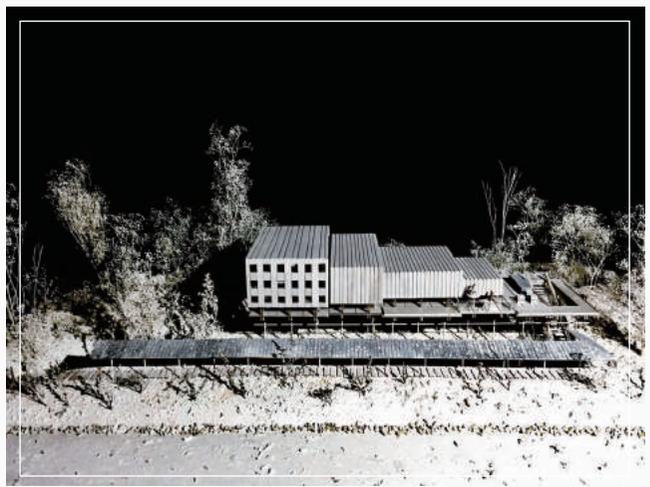
A-A' Section / A-A' 断面図



B-B' Section / B-B' 断面図



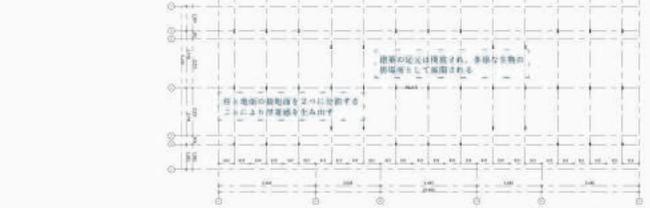
East Elevation / 東側立面図



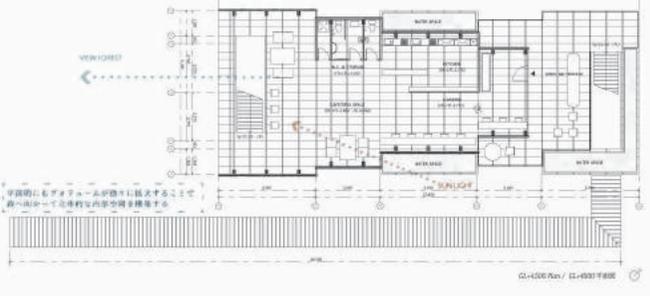
Model photo Scale=1/500 / 模型写真 Scale=1/500・建物の外観 / モデル



Model photo Scale=1/500 / 模型写真 Scale=1/500・建物の外観 / モデル



GL+0 Plan / GL+0平面図



GL+0.50 Plan / GL+0.50平面図

Model Study 01

生きる自覚を「フレーミング」する柱
森の風景を透過し、建築を軽やかに浮遊させるための機能を生む柱のスタディ

Model Study 02

太陽の光を切り取る「構築的陰影」
陰影をつくることによって太陽の光を顕在化する柱と架の構築によるビロティ空間のスタディ

Model Study 03

森の中に「浮遊」する建築
歩道に浮かび上がるように見える建築のプロポジションのスタディ

Model Study 04

太陽の光を顕在化する「立体的ファサード」
ファサードを立体的に構築することで太陽の光を美しく見せるためのスタディ

Model Study 05

雨と月を映せる「内部照明演出」
雨の深さと、そこに浮かぶ月のしさを顕在化するための空間のスタディ

Model Study 06

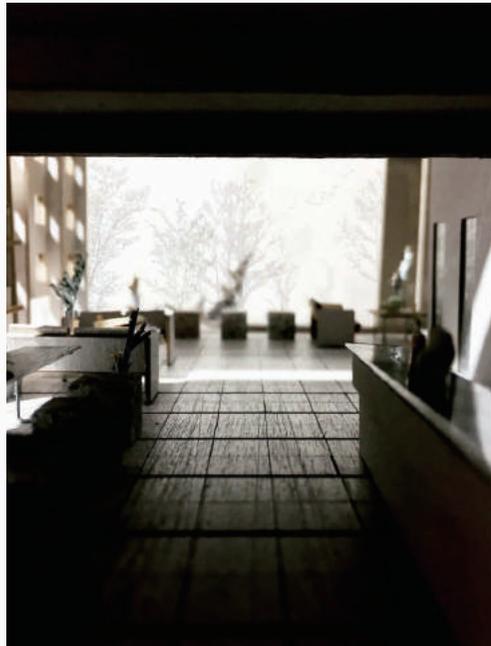
Study Model photo Scale=1/500 / 1/500 模型写真・人・スタディ / 模型



B) Study (Model photo Scale=1/50) / 模型の創成と思考



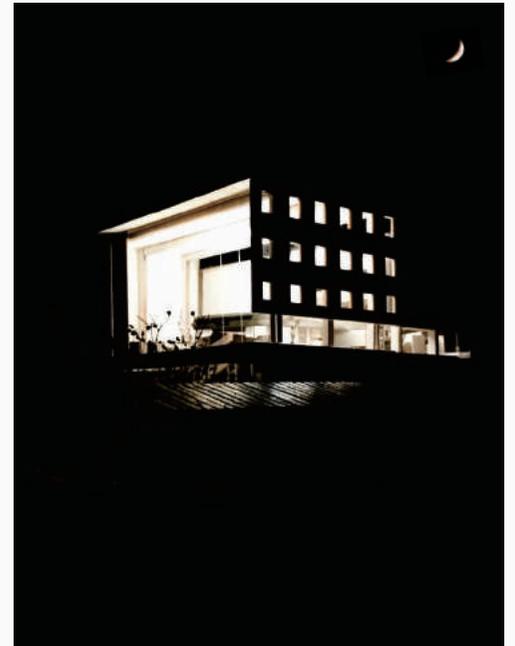
B) Pillar (Model photo Scale=1/50) / ピラー空間 (模型写真撮影尺1/50)・柱の森は生物のステージとして創成される



B) Cafeteria - Entrance (Model photo Scale=1/50) / エントランスから茶室空間を見る (模型写真撮影尺1/50)・森に向かつて拡張する空間



B) Cafeteria - Entrance (Model photo Scale=1/50) / 茶室空間から入り口を見る (模型写真撮影尺1/50)・季節の移り変へ空間として取り込む



B) Moon and Architecture (Model photo Scale=1/50) / 月と建物を映る (模型写真撮影尺1/50)・茶室の向こう側に三日月を見る

「生きる自然」に消える建築

柱の本一本には風影を透過する空間があり、柱は森の中に消えるように設計込みでゆく。見る角度や光の具合、またあるいは人々の歩行の速度によってリズムカメにその美観を変化させる。

「陰影」により研ぎ澄まされる身体感覚

人間の背丈ほどの高さな入口から、おどろきな高さ空間へと、平面的・断面的に徐々に拡大しながら空間が展開する。人々の太陽の光のあたられやすさや、陰影によって研ぎ澄まされる身体感覚がこの建築を介して経験する。

建築は「生きる自然」と共に変化し続ける

夏の新緑の深い緑、秋の紅葉に染まる葉たち、冬は枯れ木と青い空、というように四季のうつろいを空間に反映する。変化し続ける自然と建築がつながり、建築と「生きる自然」は本質的な意味でひとつになる。

闇に浮かび上がる「灯籠」のような建築

内部から漏れる照明が森の中の闇に浮かび上がり、既存のブームアップを照らすことで人々に認識されてゆく。森に浮かび上がる灯籠の向こう側にいる月は、いつもよりも美しく、美しく見られるかもしれない。